

2026 年 6 月 7 日 説教資料

使徒言行録 4 : 13 ~ 31

説教題 「イエスの名で語り 癒す」

・・・イエスの名代である弟子・・・

ドイツ滞在中にTVで放映していた番組で、「父は（ナチス・ドイツで）何をしたか」という番組を見ました。

「問題は（過ちを犯した）そのあと、どうするかです。」**暴力を是とする教育は、未来に深刻な影を落とす、**との思いがあります。

マタ 26:52 そこで、イエスは言われた。「**剣**をさやに納めなさい。  
**剣**を取る者は皆、**剣**で滅びる。

暴力の連鎖と拡大の怖さをホロコーストの生存者として、その悲惨さを体験しているから、暴力から平和は作り出せないことを熟知しているのではないのでしょうか？

マタ 5:9 **平和**を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる。

マル 9:50 塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに**平和**に過ごしなさい。」

7 節によれば、**何の權威によって、だれの名によって**病人を癒したのかが問われています。

使徒 4:7 そして、使徒たちを真ん中に立たせて、「お前たちは**何の權威によって、だれの名によって**ああいうことをしたのか」と尋問した。

21 節の議員やほかの者達は、5～6 節に記されている、議員、長老、祭司、律法学者たちです。

4:5 次の日、議員、長老、律法学者たちがエルサレムに集まった。4:6 大祭司アンナスとカイアフアとヨハネとアレクサンドロと大祭司一族が集まった。

■アンナス：

・ルカ 3:2 アンナスとカイアフアとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った。

・ヨハ 18:13 まず、アンナスのところへ連れて行った。彼が、その年の大祭司カイアフアのしゅうとだったからである。

■カイアファ：十字架の前夜イエスを尋問した大祭司、18～36年まで在位。

■ヨハネ：ユダヤ人議会（サンヘドリン）の議員ヨハネ（使4：6）

■アレクサンドロ：大祭司の一族の一人（使徒4・6）

## 17節、今後あの名によってだれにも話すなど脅しておこう

### ■あの名によって

脅す                      彼らを   二度ない   話す            よって      名に            このこと   誰にも   人の

・ ἀπειλησώμεθα αὐτοῖς μηκέτι λαλεῖν ἐπὶ τῷ ὀνόματι τούτῳ μηδενὶ ἄνθρώπων.

名）属男

τῷ) ὀνόματι + 属格，～の權威において，～の名代（みょうだい）として

17節の後半の直訳：弟子たちを脅す、二度とイエスの名代として誰にもこのことを話すなど。

28節の引照聖句は

・使2:23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。

・イザヤ14:23 また、「都を山あらしの住みか、沼地とし／滅びの箒で、掃き清める」と／万軍の主は言われる。14:24 万軍の主は誓って言われる。「わたしが計ることは必ず成り／わたしが定めることは必ず実現する。

このイザヤ書14章の預言は、

使徒言行録が書かれた年代は、AC80年～90年代であることから、エルサレムの滅亡、神殿の崩壊がAC70年であることから、この定められていたことについては、イエスの十字架と都エルサレムの陥落両方が含まれていると、読むことができます。

上山教会でも、主の御名によって、癒しを祈り、福音を伝える教会でありたいと思います。ヤコブの手紙5章14節～16節をお読みして祈ります。

5:14 あなたがたの中で病気の方は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。5:15 信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます。5:16 だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。